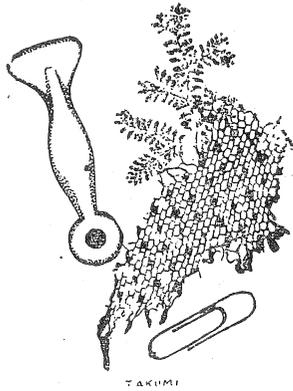


# 文部時報

第 922 号

1954 6 月号



## 社会教育法施行五周年特集

### 社会教育五か年の足跡

行政の面から.....	吉田 寿雄	4
財政の面から.....	横山 宏	9
成人教育の成果.....	日高 幸男	12
青少年教育.....	田崎 正	19
公民館・図書館・博物館.....	近藤 春文	29
社会体育の五か年.....	桜井 安二	36
芸術祭を中心として.....	富安 虎太	39
視聴覚教育の進展.....	鈴木 勉	46
社会教育の問題点と展望.....	臼井 亨一	49
社会教育法施行五周年の感想.....	寺中 作雄	2
□各国の社会教育□ ——外国教育事情——		
ソヴェト.....	岩田守夫	55
イギリス.....	吉田寿雄	56
北欧諸国.....	大志万準治	58
ドイツ.....	岩田守夫	62
中華人民共和国.....	横山 宏	63
アメリカ.....	吉田寿雄	65

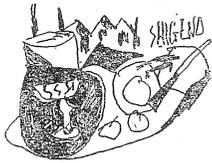
### 文部省 映画・幻燈評

—小学校・中学校の社会科に関する中間発表(通達)—.....	72
1 小学校社会科における「各学年の主題と基本的目標および内容の概略」	
2 中学校社会科「各学年の主題とおもな目標および内容」・「中学校社会科の指導計画、特に指導内容の改善について」	
3 中間発表に際しての説明要旨	
=生徒の対外試合について(通達)=.....	83
文部省重要通達事項一覧表.....	96
教育関係国内出版物目録.....	88
編集後記.....	96

表紙..... 兎玉 兼夫      カット..... 品川 工・滋野季夫  
 表紙の二..... 文部省学術映画シリーズ「ニホンザルの自然社会」から

## 芸術祭を中心として

富安 虎太



芸術の積極的育成のためにとられた措置としては、まず芸術課の誕生をあげなければならない。

すなわち昭和二十一年三月、社会教育局に新しく芸術課が設置され、芸術の奨励および調査、文学・演劇・音楽・映画教育・芸術院等に関することが所掌事務として定められた。

しかし、芸術の振興という問題はおそらく単に一局の一課では背負いきれないほど重大かつ広範な任務であり、現在はずかしく、その一端を果しつつあるにすぎないが、そのおもなものをあげれば秋の園家行的行事となった芸術祭のほか、美術における地方巡回展覧会の開催や

幻燈画の作製頒布、演劇における青少年演劇指導のための手引書や脚本集の作製頒布ならびに講習会の開催、音楽における鑑賞指導のための手引書や、レコード月報の作製頒布ならびに講習会の開催、芸能選奨として美術・演劇・児童文学・舞踊・映画・古典芸能等の全分野を通じて年度の優秀な業績に対する大臣賞の授与等がある。これらは、いずれも社会教育の一環として良い芸術を授与する。芸術教育を通じて国民一般の芸術鑑賞や創造力の水準を高めることを目的とするものである。端的にいえば芸術課の任務は国家的立場から、よい芸術を育てるとともに、それをできるだけ多くの人たちに親しませることにあるといえよう。この趣旨を最も具体的に現わし、また広く社会人の関心を集めているのはまず芸術祭であろう。芸術祭は終戦後の荒廃した焼土に芸術の香気をおくり国民に慰安と希望を与えようとして、昭和二十一年秋、初代芸術課長今日出海氏によって始められたが、すでに八回を重ね、年々文化の日を中心とする秋のシーズンには文部省芸術祭参加のポスターが劇場の廊下はもろろん、町に街頭に目立つようになり、近年は、いろいろとジャーナリズムの上にもにぎやかな話題を提供するようになった。紙数に制限があるのでごく簡単にその足跡を回顧してみよう。

第一回は東京劇場・帝國劇場の両舞台で開催された。東劇は先代菊五郎・先代幸四郎・三津五郎合同大歌舞伎（九月）に、吉右衛門・猿之助合同大歌舞伎（十月）と、もっぱら古典物上演し、これに対して帝劇は織歌劇・歌劇・洋楽・洋舞・能楽・邦楽・邦舞を配して、芸術祭は最初から多彩な性格をもって出現した。しかしこれに關する国家予算の裏付けはなく、また税金の減免も許されず、もっぱら芸術家・興行者ならびに關係有識者の積極的な協力のもとに行われるという実

情であった。若干の国家予算が初めて認められたのは、昭和二十五年

度第五回芸術祭からである。ここに、はじめて自主的な一歩を踏み出したわけで、芸術祭の主体をはっきりさせる必要があり、第一に創作活動を盛んにすること、第二にきわめてやすい入場料でよい芸術を鑑賞する機会を一般に提供すること、が眼目となった。そこで興行会社・団体の企画による参加公演をやめて（映画を除く）、文部大臣を会長とし芸術院長を委員長とする芸術祭執行委員会が自主的に企画実施することになった。次いで翌年の第六回芸術祭では、国家的祭典という見地から、できるだけ多彩な幅をもたせるため、執行委員会が企画・主催するものを第一部、参加形式のものを第二部として、ここに従前の参加公演が復活した。だいたいの形式が今日まで持続されて来ているが、年ごとに芸術祭参加の数が増加している。（第一表参照）

なお、芸術祭は東京を主とするものであるが、大阪をはじめ地方都市にも若干の経費補助が行われ、これは芸術祭の関心を全国的にひろげるだけでなく、地方の芸術文化の振興に役立っている。更に芸術祭のうち最も優秀なものについては第二回芸術祭（二十二年度）から大臣賞が贈呈されているが、第六回芸術祭（二十六年度）からは将来大いに期待できるものに奨励の意味で大臣奨励賞が授与されるようになった。

この面から見ても年ごとに増加の傾向があり、著しい上昇を示している。（第二表参照）

芸術祭が今までたどってきた足跡を顧みて、やはり国家予算が認められた第五回から本格的な歩みが見出されている。そのおもなものをあげれば、第五回では、ピカデリー実験劇場の「ヘッダーカブラー」

が大成功を博し、歌舞伎は久しぶりで二本の花道を使い、また各地方の郷土芸能が深い感銘を与えた。第六回は演舞場で、新派の合同による泉鏡花作「天守物語」と、内村直也氏に依嘱執筆の「裸舞台」の公演を行い、オペラは都民劇場と共催のもとに本邦初演の「ファウスト」の劫罰が行われた。第七回では、四人の作家に脚本が依嘱され、それぞれ上演されたが、その一つである歌舞伎劇脚本「若き日の信長」は大仏次郎氏の書き下しで、里見弴氏の演出によって歌舞伎座で上演された。海老蔵が従来の歴史の型から脱却した人間信長を好演して深い感動を与え、新脚本による歌舞伎劇のあり方を示すものとして注目された。これに対する新劇の依嘱脚本の一つは、どろ沼のような世界と、無反省だがはなはだ景気の良い豪華な世界と、この二つの世界が存在する不条理を描いた加藤道夫氏の「襦袢と宝石」が俳優座によって上演された。また、依嘱者八住利雄氏が書き下した野心作「十三階段」は民劇が上演し、滝沢修氏が、一度雑誌に発表した。登って処刑される日待つ戦犯の長男をもつ苦悩の父親を熱演した。更に依嘱脚本「龍を撫でた男」は福田恒存氏が一度雑誌に発表したものに手を加えて同氏の演出によって文学座が上演した。人格の分裂によって生ずる悲喜劇を、芥川比呂志・田村秋子・中村伸郎・杉村春子氏らのベテランの生彩ある演技が的確な効果を見せて、以上新劇三本のうちもっとも好評を博した。これに劣らぬ反響を呼んだものは都民劇場と共催のもとに公演された「フィガロの結婚」で、オペラとして空前の成功をもたらしたものである。

昨年度の第八回で特筆すべきことは、芸術祭が単なるお祭り騒ぎに終始することなく、芸術文化の向上、特に創作精神の高揚に寄与するという使命から、演劇脚本と音楽楽曲とを公募しそれぞれ大臣賞が授

与されたことである。すなわち一般から公募の楽曲を譜面審査して、陶野重雄作「交響曲ホ調」と牧野由多可作「ピアノ協奏曲」の二編が選ばれ、東京交響楽団（上田仁氏指揮・ピアノ長松純子氏）の演奏によって一般に無料公開し、審査の結果「ピアノ協奏曲」が入賞と決定した。演劇では歴史劇の脚本を募集し、五十三編の中から審査の結果、高橋丈雄作「明治零年」が入賞した。この脚本の歌舞伎座上演までにはいろいろなきざつがあり、当時ジャーナリズムの話題ともなったが、結局十一月興行で上演された。賞金はいずれも二十万円（無税）で、本年も第二回を募集中であり、芸術振興の一役をこなしている。

新劇の面では久保田万太郎氏に依嘱執筆の新作「かもめ」と、正宗白鳥氏作「江島生島」の創作二本が文学座・俳優座・民芸の三劇団の合同によって、一ツ橋講堂で国民劇場第三回公演として上演された。この際に国民劇場について一言する必要がある。一國の芸術振興のために国立劇場の設置が望ましいことは言うまでもない。特に新劇・純舞踊等の舞台芸術が発表会場を持たない現状にかんがみ、芸術課としてはぜひとも国立劇場設置の必要を痛感し年々予算要求をしているものの認められるに至らないので、その目的達成の第一段階として一ツ橋講堂を年間百日間借用して有意義な芸術活動のための劇場として活用することになり、これを国民劇場と名付け、その運営は本省の委嘱する菅原卓・福田恒存・戸板康二・内村直也・北条秀司・伊藤薫朝氏の民間専門家から組織される運営委員会が担当することになって

いる。一ツ橋大学当局の好意ある理解と新劇団および演劇界の協力によって、この国民劇場はすでに次のような公演を行って来ている。

第一回「シクサーイブセン作」民衆の敵 菅原卓 脚本 民芸  
二十八日四月五日—四月三日

第二回 ジェイムス「あっぱれクライトン」 福田恒存共演 民 芸  
 バリイ作 嶋海四郎演出 劇者土朗演出

第三回 久保田万太郎作「鴨」 久保田万太郎演出 新劇合同  
 正宗 白鳥作「江島生島」 菅原卓 演出

第四回 マクシミリアン作「どん底」 神田清帆 文学座  
 岸田國士演出 岸田國士演出

第五回 アーサーミラー作「セールの死」 菅原卓・演出 民 芸  
 (二十九年四月八日—二十八日)

第六回は「どん底」の開演前日、演出のさなか、一ツ橋の舞台で倒れそのまま死去された岸田國士氏の追悼公演として同氏の「紙風船」と「牛山ホテル」を文学座が上演する予定である。

このように国民劇場は、わが国における近代劇を確立する実験の場として、またすぐれた創作劇の研究発表の場として深い意義をもつばかりでなく、更に将来国立劇場設置の母胎たらんとする強い意欲を持つものである。

以上あまりに芸術祭を中心に筆を進めて来たが、昭和二十七年十二月京橋に開館した国立近代美術館が、いかに一般成人の美術に対する関心と理解とを高めるに役立っていることか。これが芸術教育のために果す役割は、やがて旧松方コレクションを受け入れるべき美術館の設置によって必ずや倍化されるであらうし、わが国の芸術の振興と国民の文化教養の向上に寄与する面が多く、おそらく社会教育史における大きな記念標となるであらう。(文部事務官・芸術課)

第一表 (芸術祭主催公演参加公演数)

年度	第五回 昭和二十五年		第六回 昭和二十六年		第七回 昭和二十七年		第八回 昭和二十八年	
	参加	主催	参加	主催	参加	主催	参加	主催
演劇	2	3	10	1	9	4	14	2
舞踊			6	1			10	
音楽	3	3	4	3	8	2	9	1
能楽				1	6	1	4	1
映画								
放送			6		4		4	
郷土芸能	1	1					1	
大衆芸能	1	1						
レコード								

第二表 各年度芸術祭文部大臣賞受賞一覧(昭和二十四年度までは芸能選奨事業として授与した。)

昭和二十二年	昭和二十三年	昭和二十四年	昭和二十五年	昭和二十六年
○演劇 大阪文楽座(合邦) 新生新派(十三夜) 中村吉右衛門 (歌舞伎・佐々木信綱) 尾上菊五郎 (歌舞伎・傾城ハッ橋) 尾上梅幸 (歌舞伎・早野助平) 中村芝翫 (歌舞伎・大狸力弥) ○音楽 安川加寿子 (ピアノ) 四家文子 (独唱) 伊藤齋朔 (オペラ「隠者の射手」の舞台装置)	松本幸四郎 (操三番叟の翁) 藤間歌弥 (常盤津山姫) ○音楽 富崎香昇 (邦楽界の業績) ○映画 蜂の巣の子供達 (清水映画社) 王将(大映) ○放送 加藤道子 (放送劇・魚紋) ○音楽 茂山平作 (狂言・枕物語)	田村歌子 (444貯金の444) ○音楽 豊竹山城少将と鶴沢清六 (文楽・蘆屋道満大内鑑の演奏) 副安齋三郎 (長唄・旅ゆけばの作曲) 内田あり子 (日本歌謡曲独唱) 石田 菜 (ソング)独唱 ○舞踊 小牧正英 (バレエ・愛麗の構成) ○映画 野良犬(新東宝) ○放送 日本放送協会の (放送劇・流水) ○音楽 幸・祥光(江口の小説)	清水 備 放送・インダ旋律による四楽章の作曲 昭和二十六年 ◇芸術祭賞 ○映画 麦秋(松竹) ○舞踊 貝谷八百子バレエ団 (バレエ)シゲラ ○音楽 放送清元「十三夜」の作詞、作曲、演奏者 同 ○大衆芸能 徳川無声(新譜「風車」) ○演劇 瀧沢 修 (民芸「旅の人」ゾッホの役) ◇芸術祭奨励賞 ○舞踊 青山圭男、若柳登舞踊研究所 (日本舞踊「芙蓉双影」) 江口隆哉、宮操子舞踊団 (バレエ)「ロメオの火」 ○放送 放送オペレッタ「宝石と粉砕眼」の作詞、作曲演劇効果同	市川海老蔵 (歌舞伎・生玉心中のおきか) 大谷友右衛門

<p>○演劇 俳優座(児童劇「はだかの皇帝」に対して) 北条秀司 (新団劇「霧の音」脚本・企画に対して) 沢村勲介 (歌舞伎劇「近江源氏先陣編」) 信 欣三 (俳優座「夜の訪問者」) 宮内順子 (文学座「崑崙山の人々」) 昭和二十七年 度 ◇芸術祭賞 ○音楽 松平頼則 (ピアノ)と管弦楽のための主題と変奏の 作曲) ○舞踊 小牧バレエ団 (「眠れる森の美女」の本邦初演) ○能楽 橋岡久太郎 (阿漕「演後」) ○映画 生きたる(東宝) ○放送 日本放送協会 (放送劇「ぼたもち」) 新日本放送株式会社 (「イー・ヒートローゾ物語」)</p>	<p>◇奨励賞 尾上松緑 (「若き日の信長の平手政秀及び恐濃傳 多風の毛利九右衛門の演技」) 北川 勇 (新團龍をなでた男の装置) ○能楽 近藤三三 (「山姥」の演技) ○音楽 芳村伊十郎他 NHK放送楽の木の作詞・作曲・演奏 ○舞踊 藤岡節子 (「赤いろうそくと人魚」他の構想・作曲・ 振付・装置・照明) 武原はな (「柳屋」)「E」の演技) 花柳錦之輔 (「暹日笑」「沈鐘」の創作に対して) ○放送劇 七尾玲子 NHK「時計」の演技 吉木文雄 (「ラヂオ九州セミドキョメンタリド ラ」) 水郷柳河こそは我が生まれの里の企 画構成) 宇野重吉 (朝日放送「泥の中の演技」) 昭和二十八年 度</p>	<p>◇芸術祭賞 ○映画 東京物語(松竹) ○舞踊 井上八千代 (「雪まろび」「菊」の演技) 井上佐多 (「雨月」「桶取」の演技) ○音楽放送 林 光 (交響曲「調」の作曲) 曙井 誠 (「オーケストラのためのコンチェン ソ」の作曲) ○能楽 桜岡月川(熊野「の演技」) ○放送劇 山口 草(錦山「の演出」) ○講談 田辺南龍 (「若月若松城」の話芸) ○奨励賞 ○演劇 ぶでぶの会(「風浪」) 中村扇雀 (飯沼手木忠臣「の演技」) 中村又五郎 (明治零年「の演技」) 花柳錦之輔 (「流亡」「天章四郎」の演技) ○音楽放送</p>	<p>大木正夫 (交響曲「風暴の図によせて」の作曲) 都 一春 (「花の段」の作曲) 宣下秀則 (等主題組曲「平家物語による幻想」の作 曲) 米川敏子 (第曲「千鳥と海ぶ御恵子」の作曲) ○能楽 松本謙三 (「砦」)「安宅」のソキ演技) ○放送劇 新日本放送株式会社 (「花は満開」の作品・演出) 北海道放送 (「ヌタツリカムシユ」の作・音楽・ 演技・演出) 深井史朗 (「源五郎」第一部「雪女の作曲」) 堀江林之助 (「源五郎」三部作) 加藤幸子 (「反江」)「底流」の演技) 江口高男 (「反江」)「底流」の演技) 高橋文雄 ◇芸術祭賞脚本賞 「明治零年」 ◇芸術祭作曲賞 牧野由多可 (「イー・ヒートローゾ」)</p>
---	--	--	--

第三表 芸術祭主催公演一覧

部門	年度	演劇	音楽	舞踊	雑劇	郷土芸術	大衆芸術
演劇	昭和二十五年(第五回)	新劇(新派合同「マダム・ガブリエル」)	邦楽(長唄・三曲・常盤津他) 洋楽(日響公演・邦人作曲) オペラ(マダム・バタフライ)	邦舞(合同公演) 洋舞(東京新合同バレエ) ノ(小牧バレエ・ホテルマン)	宮内庁楽部(日比谷公会堂)	第一回郷土芸術大会(共立講堂)	芸術鑑賞会(三越)
演劇	昭和二十六年(第六回)	現代劇(新派新劇合同 「天守物語」「裸舞台」)	洋楽(室内楽) 〃(交響楽・NHK交) オペラ(フヤウストの劫罰) 第六回全日本学生音楽コンクール	邦楽・邦舞(合同公演)	宮内庁楽部(上野国立博物館内庭)	郷土芸術大会(日比谷公会堂)	芸術鑑賞会(三越)
演劇	昭和二十七年(第七回)	歌舞伎劇(若き日の信長) 新劇(キロと宝石) 〃(十三階) 〃(龍をなでた男) 文学座	洋楽(交響楽・NHK交) オペラ(マイガロの結婚)		立太子礼拝初庭(水道橋能楽堂)		
演劇	昭和二十八年(第八回)	歌舞伎劇(明治零年) 新劇(新派合同「江島生島」)	洋楽(交響楽・邦人作曲・東京交)	邦舞(合同・新作「野武士」他) 洋舞(作品七番、江口・宮) 〃(人間釈迦、石井漢) 〃(炎も星も、高田・山田)	宮内庁楽部(皇居内)	郷土芸術大会(日本青年館)	

大 臣 官 房

(人 事 課)

文人任	10	外国人教員の給与改訂に伴う契約更改について	2.24	人事課長	国立学校長
"	6	国立学校の事務機構について	3.11	"	"
文人給	21	国立学校(所轄機関)職員の給与関係資料の作成について	3.17	"	国立学校長・所轄 機関長
"	22	給与関係資料の提出について	2.20	"	国立学校長
"	25	教務職員の大学等教育職員級別俸給への切替の実施等について	3. 3	"	"
"	26	俸給の調整額(人事院規則9-16)の適用について	3. 4	"	"
"	27	昭和29年4月1日における昇給について	3.10	"	本省局課長・国立 学校長・所轄機関 長
"	31	分類官職在職状況半期統計報告について	3.19	"	国立学校長・所轄 機関長
"	3	国家公務員等退職手当暫定措置法施行令第3条第1項第2号について	3.27	"	"
国人	16	未帰還公務員の恩給金額を計算する場合における基礎俸給について	2.23	事務次官	国立学校長・所轄 機関長・文化財委 員長
"	25	人事院規則1-4(現行の法律命令及び規則の廃止)の一部改正について	2.25	人事課長	本省局課長・国立 学校長・所轄機関 長
"	29	級別資格基準表等の適用を異にして移動した職員の昇給について	3. 6	"	" " "

編 集 後 記

○社会教育法が施行されてから今年は五周年に当るので、社会教育の足跡―その進展のあとを展開して、将来の参考にしようというわけで、特集としました。いろいろの面についてのごまかい記述を掲載することができましたので、社会教育の現状と問題点を考えるにはじゅうぶん参考になると思います。

○学制八十年史の完成に当って、執筆や編集に参画されたかたがたの座談会の記事と書評とを用意したのですが、紙面の都合で次号にまわします。

○「社会科の指導計画に関する資料」の全文を掲載します。このうち別紙(1)の(参考資料)は本年三月号の22~24ページにも掲出されていますが、一括資料としてこゝにも掲載しました。

購 読 料	MEJ 8760
定価 六十五円	文部時報 第六月号
送費 四円	第九百二十二号
一か年七百八拾円	昭和二十九年六月五日 印刷
(送費とも)	昭和二十九年六月十日 発行
ただし増大号・臨時号の場合は別に代金を申しあげます。なお購読の申込みは直接発行所またはほとりの書店にお願いします。	所 著 者 文 部 省
	東京部中央区銀座西七の一 株式会社 帝國地方行政学会 大 谷 道 彦
	東京部立川市曙町三の五五 印刷者 株式会社 行政学会印刷所 藤 本 外 次
	東京部中央区銀座西七の一 株式会社 帝國地方行政学会